令和 4 年度後期アーバンデザインスクール第 3 回実績報告書

1. 開催日時

令和 5 年 1 月 17 日（火）18 時 30 分～20 時 00 分

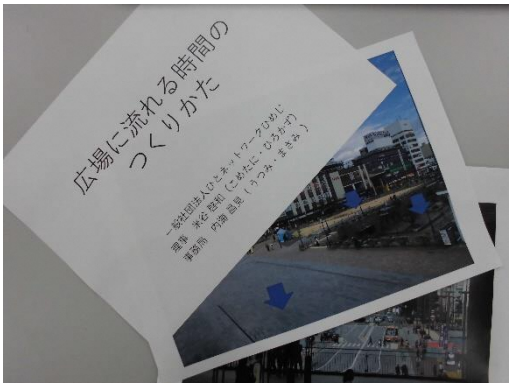
参加人数: 23 名（UDCBK での視聴: 10 名、オンライン: 13 名）

※オンラインでのアーカイブ配信の視聴回数は、12 回

2. テーマおよび話題提供者

「広場に流れる時間のつくり方」

- 近年、道路空間や河川空間などの公共空間は、各地で人が楽しめる場へと生まれ変わっている。南草津でも、素敵な公共空間を創造するきっかけとなるように、多様な事例と実践的な手法を学ぶことを共通テーマとした「南草津のパブリックスペースの利活用に向けて」の第 3 回である。
- 第 3 回の本スクールは、一般社団法人ひとネットワークひめじ 理事の米谷啓和氏と事務局の内海昌見氏を講師に迎え、姫路市において、公民連携で取り組んでいる「姫路駅北にぎわい交流広場」のにぎわいやそこに流れる「時間」の作り方についてお話をいただいた。



3. 話題の概要

(1) 米谷氏による講演

ア. 時間

- 個人と家族、都市と地方に流れる時間は異なる。時計で測られる直線的な時間とは異なるものを広場につくることを目指した。よって、姫路駅北にぎわい交流広場には、最初は時計も設置しなかった。
- 広場の植栽も地元の山で苗木採りをするなど、時間をかけて整備した。
- 近代化のなか、個人の自立により、家族や地域といった関係性の中でできていたことを自ら行う必要が生じるため、自由が奪われる。

イ. 広場の整備

- 当初、市が提示した駅前空間の素案に対して、各種団体から色々な提案が寄せられた。
- 従来の行政主体による構想から開発、運営管理までを行う方法から、ビジョンを行政と市民が共有し、マネジメントにも市民が参画と協働する方法に変わってきている。
- 姫路駅前広場整備の 5 つの要諦
  1. クルマから人への都市計画の流れ
     平成 19 年にこれまでの都市計画決定の変更を行い、鉄道の高架化と併せて整備していった。
  2. 協働のデザインによるコーディネート
     当事者、関係者を明確にし、ビジョンを共創、共有する。まちづくりの NPO 法人と商店街連合会とが協働し、専門的知見を交えながらワークショップを繰り返して、パースをつくり上げ発表した。結果的に構想の 8 割から 9 割が実現した。
  3. 適切な専門家と「人」の存在
     明治大学の小林正美教授の協力を得て、シャレットワークショップを実施し、レイアウトを提案したのち、一体的なデザインを行うチームを発足させた。
  4. 不法駐輪の同時解決
     高架下に駐輪場、バスプール、タクシープールを整備し、一時ロック式駐輪場の設置をし、長期駐輪と一時駐輪を分けることにより不法駐輪の課題を解決した。
  5. 実証社会実験による課題解決「チャレンジ駅前おもてなし」
     継続的な賑わい・交流の創出、回遊性向上などの目的のためにプロボーザルによる事業者公募を行い、様々な取組を実施してきた。
- 合意形成というプロセスを通して将来の主体の形成へ向かうことが重要である。
- 整備により、利便性向上による地価の上昇という成果が見られた。

(2) 内海氏による講演

ア. 姫路駅北にぎわい交流広場

- 芝生広場、キャッスルガーデン（地下広場)、地下通路の三つのパブリックスペースによって構成される。

イ. 社会実験「チャレンジ駅前おもてなし」

- オープンカフェやマルシェ、ダンスステージ、結婚式まで様々なイベントを行っており、多い年には年間 390 件ほど実施したこともある。

ウ. イベントの無い日の広場

- 学生が多数集まることもある。広場を使う将来の世代の利用はとても重要である。
- 水で遊べる空間はいつも賑わっており、常日頃から人が来ている状態である。

4. 質疑応答等

(1) 岡井氏: 各種団体からの提案があるほど姫路市は市民の活動が活発なのか。

松岡氏: （前理事長の松岡淳朗氏による回答）商店街連合会では自分たちで勉強会をしてパースまで出したが、市の素案に反映されなかった経験から、米谷氏に協力してもらい、新しいパースの提案に至った。そのための構想段階では、色々な個人、団体が自由に議論してもらえるような場にした。

(2) UDCBK: 当事者はどのように見極めているのか。

米谷氏: 広場を使う人が当事者だと言える。市の懇話会や審議会には同じような人が参加している印象があるが、そうではなくて例えばしがらみの少ない NPO の人達に参加してもらった。

(3) 参加者 1: 当事者には訪れる人も含まれるのか。

米谷氏: 本来はそうだが、広場を使う人と、活動を担う人を中心に議論した。訪れる人に議論に参加してもらうのは難しい。

(4) 岡井氏: ワークショップの動員はどのように行ったのか。

松岡氏: 商店街のつながりから輪を広げていった。商店街に関係のないような人でも誰でも参加してもらえるような場にした。

(5) 参加者 2: 将来に向けたマネジメントの課題は何か。

内海氏: 芝生広場と地下広場それぞれ別のイベントが実施できることが特徴である。ただし、同じ人が毎日イベントをするようなことがないように一定の利用制限をしているが、何となく広場を使いたい人も利用できる。トータルで広場の利活

用の質を向上させていくことは必要だと思う。

岡井氏: 市民が誰でも使える素敵な空間になっているように感じる。

(6) 参加者 3: 広場を整備したあとの運営の仕方について気を付けていることは何か。

内海氏: 今のところ大きな問題は生じていない。路上ライブは、広場でやってもらうように呼びかけてはいるが、できるだけ禁止事項を設けることは避けたい。

岡井氏: お話を聞いていても若い人や次の世代の人が参加している印象がある。

5. アンケートまとめ

当日参加者、アーカイブ視聴者を含め、アンケートに回答いただいた方は 11 名だった。

問 1. 参加者属性

(1) 年代

10 代～20 代	30 代～40 代	50 代～60 代	70 代以上
2	6	3	0

(2) お住まい

草津市内に居住	草津市内に通勤・通学	県内他市に居住	滋賀県外に居住
9	2	0	0

(3) 職業

学生	大学関係者	会社員等	その他
2	1	7	1

(4) 開催を知った手段（複数回答の場合あり）

チラシ	ホームページ	SNS	メールニュース	広報誌	知人	その他
2	2	0	5	0	2	0

問 2. 今回、印象に残った点、講師の方へのメッセージなど

- 広場として各々の思い思いの形で過ごせるように上と下で分けたり、人の流れはスムーズにするなど非常によくデザインされたりしているのがわかった。誰もが主役となれるように多数のコンセプトやターゲットを想定していくことやそれを生み出す市民参画のプロセスを持つことが重要だと感じた。
- 広場に流れる「時間」に対する考え方を合わせるという話が面白かった。ワークショッ

プの数が合意形成に繋がると感じました。

- 参加構成のデザインの重要性について学ぶことができた。どうしても船頭が多くて船山を登るような構成になったり、〇〇長のような代表ばかりで権威はあるものの利用者なのかというと疑問があったりする構成となっている。実際にそのような方と合意形成をしていく過程や苦労話を聞きたかった。
- 時間から自由になった個人が逆に時間に拘束されてしまうという逆説の話がとても興味が湧きました。
- 誰が関係者なのかの見極めが大切なことが分かりました。社会実験の大切さを感じました。
- 参加、プロセス、プログラムのデザインはどのような事業でも共通して重要だと思いますし、意識しなければならないと感じました。
- 姫路駅前を訪問した際に広々とした都市（都会）的魅力を感じました。本日話を伺って関係者の熱意による実現と理解しました。アーバン（サスティナブル）デザインセンターを志向される本意を教えてほしいと思った。
- 姫路のまちがとてもいい感じになったと思っています。計画する段階から参画することが重要との事。製造業と同じと感じました。松岡さんのお話迫力あって良かった!
- 「近代社会の時間」のお話が、一番、印象に残りました。様々な年代や立場の人が訪れる広場は、空間もそこにあるものも、もっと自由で、形を変えることが可能なものが良いと以前より感じていましたので、「しがらみから自由になる、個人的な時間を主体にして作っていく事が、近代社会の時間になる」というお話に共感しました。また多くの転入者が住む、南草津が目指す形でもあるとも感じました。お話を伺い、街の活動で自分にできる事がないか、考えてみたいと思っています。ありがとうございました。

問 3. 今後のテーマや概要等についての要望

- 子育てや教育についてのテーマを取り上げていただきたいです。
- 講義が手元に残るよう、資料（概要が書かれた 1 枚ものでも）があるとメモしやすいです。
- 良いと思います。平日の夜が助かります。今日のような事例紹介が楽しみです。ありがとうございます。